

令和3年度 とまり樹はうす 事業報告書

1 総括

利用登録者51名の内9名が令和4年4月に新規グループホームに入居したことに伴い、新たに利用者募集を行い、応募者28名の内18名を新規登録者として受け入れた（選考に漏れた利用者にはゆずの樹はうすの短期入所への利用登録を勧め9名が登録となった）。体験利用については、最低2か月に1回の利用を保障する為、登録制としており、希望者全員の受け入れができない状況だが、今年度新たに受け入れが出来たことは大変に意義があったといえる。新規利用者については、家族や関係機関等から丁寧なアセスメントを行ったうえ、安全に過ごすことを最優先に支援にあたり、大きな事故なく過ごすことが出来た。一方で、利用頻度は、月に1回程度であったため、職員と利用者との関係構築や本人の特性の把握がなかなか進んでいない他、多くの利用者は環境に慣れるにはもう暫く時間がかかるとみている。

また、令和3年度も、令和2年度に引き続き新型コロナウイルスの影響を受けた一年となった。新型コロナウイルス感染症への不安から、利用を自粛する利用者は昨年度を上回り、黒字収支は維持できたものの、収支差額は2年度より悪化することとなった。

2 事業概要

- 1) 施設名 とまり樹はうす
- 2) 事業種別 短期入所事業（グループホーム併設型）
- 3) 所在地 東京都小平市花小金井南町1-26-28
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 2名
- 6) 利用契約者数 56名
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成28年4月1日
- 9) 職員 （令和4年3月31日現在）
管理者 1名
生活支援員 10名 （常勤換算9.2）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

4 基本方針

- 1) 一時的な生活支援
家族または介護者が何らかの理由（冠婚葬祭、病気、事故、休養、その他の理由）により、一時的に自宅で支援することが困難な場合に、日常生活に必要な支援を行う。
- 2) 生活体験としての支援
生活体験の幅を広げ、より豊かな生活を支援する。

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

| | | |
|---------|--------|----------------|
| 5時00分～ | 7時30分 | 起床 |
| 7時30分～ | 9時30分 | 日中活動先及び勤務先等へ外出 |
| 16時00分～ | 17時00分 | 利用開始 |
| 16時00分～ | 20時00分 | 入浴 |
| 18時00分～ | 19時00分 | 夕食 |
| 20時00分～ | 22時00分 | 就寝 |

7 重点課題・目標

1) 活動

(1) 利用者が安心して利用できる環境をつくる

- ① 利用開始時及び利用終了時に検温を行う他、建物内の消毒等により新型コロナウイルス感染防止対策を徹底する。

【成果と課題】

検温、手洗い、消毒、時間差の食事などの基本的な感染対策を行った。ただし、マスクについては、着用を拒否する利用者が多く、徹底ができなかった。利用の数日後に新型コロナウイルス感染が発覚した利用者が1名いたが、とまり樹はうすで感染が広がることはなかった。

- ② 新規の利用者に対し、本人、家族、関係機関等から状況や要望の聴取を行った上、アセスメント情報や申し送りによって、確実な情報を職員間で共有することで円滑な支援を実施する。
- ③ 家族等へ利用後に利用時の様子を報告し、意見や感想を聴取することで支援の評価をおこなうとともに、次回の支援に役立てる。

【成果と課題】

4月に新規登録した利用者18名の内、新たに17名が利用を開始した。家族や通所先事業所等からの情報により利用前に生活状況や必要な支援内容を把握するよう努め、事故やけが等を防止することが出来た。利用後に家族から自宅での様子を聴取した際、「帰宅後少し落ち着かない」「帰宅した日は自宅でよく寝る」などの感想があり、半数以上の利用者は家族と離れた場所で過ごすことにまだ慣れていない様子が伺えた（新規利用者17名の内、初めて短期入所事業を利用した利用者は15名）。新規利用の全家族が、今後も利用を継続し、経過を見ていきたいと希望している。

④ 事故防止を徹底する

- ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
- ・無断外出行為のある利用者に対し、見守り及び建物内の施錠を徹底する。

【成果と課題】

服薬の際は、服薬指示書を基に服薬担当者を含め複数の職員で確認し、誤薬等の事故は発生しなかった。また、利用者の特性を事前に把握することで、けがや離接等の事故も防ぐことができた。

(2) 365日の支援体制を整備し、緊急対応の支援を行うことでセーフティネット機能の役割を果たす。

- ① 常勤換算6.0名を採用し16.7名の支援体制とする。
- ② 支援スキルの向上により服薬管理や緊急時の対応が適切に行える支援態勢を整備する。

【成果と課題】

新たに職員を採用できず支援体制は職員10名、常勤換算9.2人（全員グループホームとの兼務）となっており、目標の常勤換算に7.5人不足している。土日祝日については、支援体制の都合により、緊急ケースのみの受け入れとなった。

(3) 体験利用者の支援内容を充実する

- ① 個別支援計画を作成し、支援方針の共有を図る。
- ② 利用時の様子や職員の支援内容等を丁寧に記録のうえ支援経過を共有し、支援内容を統一することで支援の充実を図る。
- ③ 一人ひとりの情報を正確に記録し、また、書面による申し送りを徹底することで支援の統一を図る。

【成果と課題】

利用者到着後の荷物の確認、翌日の持ち物の準備、服薬管理、食事・入浴支援等の業務のルーティンが決まっており、利用者は事故なく安全に過ごすことが出来た。しかし、本人の嗜好や利用時に楽しく過ごすことに焦点を充てた工夫等を行うまでには至らなかった。また、個別支援計画も作成しておらず、統一した支援の実施についても不十分となった。ケース記録への記載については、食事、入浴などの利用者の行動については時系列に記載されるようになったが、本人の様子に関する記述が少なく、本人の特性把握や有効な支援方法等のための情報共有に活用できるものにはなっていなかった。令和4年度は、利用者との関係構築や本人把握を進めることにより、利用者が充実した時間を過ごせるよう取り組んでいきたい。

2) 人材育成

(1) 主たる職員の育成・指導

- ① 利用者一人ひとりにきめ細やかな支援を行う。

【成果と課題】

利用時における申し送り事項等については、利用開始時に本人及び家族から聴取した個人シートをもとに、主たる職員からその他の職員へ引継ぎを行い、概ね正確な情報伝達ができた。利用者が充実感をもって過ごせるような工夫等については、管理者の指導不足もあり、実施することが出来なかった。

- ② 個別支援計画に基づいた支援を実施するとともに支援経過や本人の状況等の記録を不備なく行う。
- ③ 支援内容及び本人の状況について、その他の職員と共有を図るとともに必要に応じて指導を行う。

【成果と課題】

前述の通り、個別支援計画を作成しておらず、支援方針に基づいた統一した支援が不十分となったうえ、管理者の指導不足もあり、利用者への言葉かけや振る舞い、また、利用者の状況を共有するための記録内容等に関し、職員へ適切な指導が行えなかった。

- ④ 職員の勤務シフト管理を的確に行い、安定した職員体制の確保に努める。

【成果と課題】

併設しているグループホームの支援体制とあわせ、臨機応変に勤務のコーディネートを実施した。支援体制が確保できず、土日祝日は体験利用の受け入は行わず、緊急ケースのみの受け入れとなった（実人数8名、延べ50名）。

(2) その他の職員の育成・指導

- ① 個別支援計画に基づいた利用者支援を丁寧に行う。
- ② ケース記録に利用者の様子や支援経過を丁寧に記載し、支援の統一を図るとともに、支援技術のノウハウを蓄積する。

【成果と課題】

開設以来、継続して利用している17名については本人の状況の把握も進み、概ね良好な関係が築けているが、前述の通り、PDCAサイクルに基づいた支援が不十分となった。

3) 経営管理

(1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算表の分析により月々の経営状態の把握に努め、計画的に予算を執行した。

(2) 介護給付費収入等の安定確保を行う。

・目標利用率： 80% (平日95%、休日50%)

【令和3年度目標額】

| | |
|----------|-------|
| ・介護給付費収入 | 約580万 |
| ・都加算収入 | 約220万 |
| | 約800万 |

【成果と課題】

新型コロナウイルス感染症の影響により、利用自粛や体調不良による当日のキャンセルが多く、前年度同時期比で利用率が減少し介護給付費及び東京都の補助金（都加算）は目標に達しなかった。但し、職員配置減による人件費の減少で収支差額は令和2年度より増額した。

| 《利用率》 | 令和3年度実績 | 令和2年度実績 | 前年度との差 |
|-------|---------|---------|--------|
| | 56.4% | 60.4% | △4.0% |
| (内訳) | | | |
| 平日 | 73.9% | 83.5% | △9.6% |
| 土日祝 | 20.8% | 13.4% | 7.4% |

《給付費等収入》

| | 令和3年度実績 | 令和2年度実績 | 前年度との差 |
|---------|---------|---------|--------|
| 介護給付費収入 | 約420万円 | 約490万円 | △70万円 |
| 都加算の収入 | 約180万円 | 約170万円 | 10万円 |
| 総額 | 約600万円 | 約660万円 | △60万円 |

8 夜間等緊急時の対応

夜間等の緊急時は、併設しているホームの職員と連携し支援態勢の確保を行うこととなっているが、夜間に緊急体制を要する事案は発生しなかった。

9 事故報告

なし

10 実施状況

1) サービス実施日数 自：令和3年4月1日 至：令和4年3月31日
224日間(内、土・日・祝日開設49日間)

11 利用状況

1) 利用登録者数 57名

2) 実利用者数 35名

(1) 利用目的

①緊急利用 11名 (令和2年度 15名)

②体験利用 24名 (令和2年度 17名)

合計 35名 (令和2年度 32名)

(2) 平日・土日祝日利用

| | | | |
|-------|-----|--------|------|
| ①平日 | 34名 | (令和2年度 | 32名) |
| ②土日祝日 | 8名 | (令和2年度 | 4名) |
| 合計 | 42名 | (令和2年度 | 36名) |

※42名中7名は平日と休日併用。 ※36名中4名は平日と休日併用。

3) 延べ利用者数

(1) 利用目的

| | | | |
|-------|------|--------|-------|
| ①緊急利用 | 159名 | (令和2年度 | 272名) |
| ②体験利用 | 253名 | (令和2年度 | 169名) |
| 合計 | 412名 | (令和2年度 | 441名) |

(2) 平日・土日祝日利用

| | | | |
|-------|------|--------|-------|
| ①平日 | 362名 | (令和2年度 | 411名) |
| ②土日祝日 | 50名 | (令和2年度 | 30名) |

1.2 利用者状況

1) 年齢別

| | 実人数 | 延べ人数 |
|-------------|-----|------|
| ・18歳以上20歳未満 | 1名 | 13名 |
| ・20歳以上30歳未満 | 24名 | 263名 |
| ・30歳以上40歳未満 | 4名 | 45名 |
| ・40歳以上50歳未満 | 4名 | 68名 |
| ・50歳以上 | 2名 | 23名 |
| 合計 | 35名 | 412名 |

2) 区分別

| | 実人数 | 延べ人数 |
|------|-----|------|
| ・区分1 | 0名 | 0名 |
| ・区分2 | 5名 | 44名 |
| ・区分3 | 6名 | 88名 |
| ・区分4 | 7名 | 67名 |
| ・区分5 | 8名 | 95名 |
| ・区分6 | 9名 | 118名 |
| 合計 | 35名 | 412名 |

3) 性別

| | 実人数 | 延べ人数 |
|-----|-----|------|
| ・男性 | 29名 | 365名 |
| ・女性 | 6名 | 7名 |
| 合計 | 35名 | 372名 |

4) 居住状況

| | 実人数 | 延べ人数 |
|-------|-----|------|
| ・管内居住 | 28名 | 308名 |
| ・管外居住 | 7名 | 104名 |

1.3 環境の整備

施設内外の美化及び整理整頓を行い、衛生保持、また転倒の防止に務めた。

1.4 健康管理

- 1) 新型コロナウイルス感染症等の感染症対策を徹底する。
- 2) 関係事業所や家族との連携を密にし、健康状態の把握に努める。

日常的に検温、手洗い、消毒等の基本的な感染対策を行った。また、利用者の通所先等で新型コロナウイルスの陽性者が出た場合は、隣室の利用者及び家族へ事前に情報提供を行った他、利用者同士の時間差の食事、1回ごとの浴槽の湯の張替え等の感染対策を実施した。

1.5 防災計画

併設しているグループホームと合同で、災害時避難訓練を年2回実施した。3月に計画していた防災訓練については新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。